IT食農だより

発行元：豊橋技術科学大学　先端農業・バイオリサーチセンター
住所：〒441-8580　愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
TEL：0532-44-6655　　E-mail：info@recab.tut.ac.jp

2023年4月15日
No.91

修了生（来賓・学長・スタッフと）

修了式が行われました！

3月24日（金）、最先端植物工場マネージャー育成プログラム第10期およびIT食農先導士養成プログラム（最先端土地利用型IT農業コース）第6期生の修了式が行われ、寺嶋学長から修了生7名に称号・修了証書が授与されました。

続いて教室講義とｅラーニングで優秀な成績を修めた山本敏之氏と飯沼辰也氏に「優秀成績賞」、課題研究では福重幸輝氏、飯沼辰也氏に「課題研究優秀賞」が表彰されました。学長式辞を受け、修了生を代表して飯沼辰也氏が答辞を述べました。（文責：前田紀子）

学長式辞

修了された皆さん、おめでとうございます。

本日は、「最先端植物工場マネージャー育成プログラム」を6名の方が、「IT食農先導士養成プログラム（最先端土地利用型IT農業コース）」を1名の方が修了されました。

本日修了された皆さんには、「植物工場管理経営士」、「IT食農先導士」の称号を授与しました。ぜひ、様々な機会で、「植物工場管理経営士」や「IT食農先導士」を名乗り、自信をもってご活躍いただくとともに、豊橋技術科学大学の名を、世の中に大いに知らせていただきたいと思います。

また、この両プログラムには、本日ご出席の豊橋市、田原市、株式会社サイエンス・クリエイト様をはじめ、豊川市、蒲郡市、新城市、地元企業の方々から様々なご支援をいただいております。これらのご支援により、各種人材育成事業が運営できているということに、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

「最先端植物工場マネージャー育成プログラム」と「IT食農先導士養成プログラム」は、本学の「履修証明プログラム」として位置づけられており、本学が実施する社会人向けプログラムの中でも、最も実績のあるプログラムです。皆さんは、昨年度の12月から受講を開始し、1年4ヶ月の間、教室講義やｅラーニング、各種研修や課題研究に取り組んでこられました。すべての講義科目において、レポートが課され、また、課題研究では、それぞれがテーマを決めて取り組み、発表を行いました。社会人として、様々な制約がある中で、これらを行うことは、決して容易なことではなかったでしょう。この度、7名の方が、すべての課程を修了されたことをとても嬉しく思います。そして、この学びが、皆さんのこれからの活躍に大いにプラスになっていくことを期待します。

皆さんを加え、「植物工場管理経営士」は111名、「IT食農先導士」は235名となりました。人材育成は、プログラムの受講を修了すればそれで終わりというものではありません。皆さんは受講中から、『IT農業ネットワーク』の一員として、先端農業・バイオリサーチセンターが実施する各種人材育成事業の受講生・修了生と共に、ネットワークを形成しています。このネットワークこそが、このプログラムの最大の強みと言えるでしょう。また、本学の『IT農業サポートセンター』が、このネットワークを支えています。是非、これからも大いにネッ

トワークを活用し、皆さんの活動に役立ててください。

昨今では、社会人のリカレント、リスキルということが謳われています。本学では、「社会人向け実践教育プログラム」として、先端農業・バイオリサーチセンターだけでなく、他のセンターや研究所等でも、様々な社会人向けの人材育成を行っています。また、東三河地域には「社会人キャリアアップ連携協議会」という組織もあり、大学だけではなく、産学官金といった連携のもとで、地域を挙げて、人材育成を進めようとしています。今後も、様々な機会で、皆さんの学びに役立つことと思います。

皆さんは、1年4ヶ月の重厚なプログラムを終えられ、今はホッとされているかもしれません。ただ、「学び」とは、終わりがないものでしょうから、プログラム修了後も「学び」を続け、またIT農業ネットワークの仲間と連携することによって、地域の農業の発展、さらには本地域の活性化に貢献されることを期待しています。

修了にあたり、私から、あらためてお祝いの言葉を申し上げて、式辞とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

修了生答辞

春分も過ぎ、景色が春色に染まり始め、陽射しの温もりが心地よく感じられる季節となりました。

本日は、御多忙の中、寺嶋一彦学長をはじめ、ご来賓の皆様、先端農業・バイオリサーチセンターの諸先生方、関係の皆様のご臨席を賜り、私たちのために、天伯原の本キャンパスにて心のこもった修了式を挙行していただき、修了生一同を代表して心より御礼申し上げます。

私は、3年前の4月、新型コロナ感染症の拡大をきっかけに、50年以上営んできた事業を廃業致しました。その後、再度社会に貢献できる場を模索し農業に関わりたい気持ちが生まれました。しかし、全くの素人であったため、農業の基礎を学ぶために愛知県農業大学校の育成支援研修に参加致しました。当初は新規就農を目指していましたが、住環境や借りる農地の条件から新規就農は困難だと判断し、別の形で農業全般に貢献することに致しました。そのためには、さらに農業についての見識を深める必要性があり、貴大学のIT食農先導士養成プログラムに志願致しました。

コロナ禍の中で、一部の講義と先端施設研修はオンライン形式で開催されました。しかし、先端施設研修については、感染の拡大とおさまりを見極めながら日程調整のご配慮とご努力を賜り、実地での研修が6回のうち5回も実現できたことに関して、感謝の気持ちで一杯であります。施設研修中、会社の事業で農業に関わる

寺嶋学長と答辞を述べる飯沼氏

方、この東三河で実際に農業を営まれている方、新しい農業技術に関心のある方、農業方面へ就職を目指す大学院の学生さんなどと意見交換でき、大変有意義でありました。各農園やほ場の視察では、苦労を重ね、現在、真に活躍され全国農業産出額トップクラスの「農業王国・東三河」を支える取り組みを見せていただき、深い感銘を受けました。

カリキュラムは、対面での講義、オンライン ライブの集中講義とｅラーニングを並行して自主学習する盛り沢山なものでした。各科目では、中間および最終レポートが伴い、自らが如何にするかを問われる課題が多く、〆切までに纏め上げることは多大な労力を要し大変でしたが、振り返ってみると、一つ一つが自分の財産になったように感じられます。

課題研究では、農地も施設も持たない自分に何ができるのだろうと最も不安でしたが、大学内のほ場を使わせて頂きました。課題にぶつかるたびに熊崎先生には暖かくお導き頂き感謝申し上げます。各々が、普段の活動範囲の中で思案を重ね、自らの課題を設定し、7月の計画検討会に臨み、11月の中間報告会、本年2月末の最終発表会に至ることができました。先生方から頂いた総評のお言葉のように、この経験は農業とは無縁である分野においても役立つものとなったと思います。

この1年4ヶ月の間、仕事やコロナ禍の新しい日常と両立しながらの受講は大変でしたが、無事にやり遂げることができました。これもひとえに、共に励むことが出来た同期の存在、そして先端農業・バイオリサーチセンターの皆さまのご支援があってのことと、改めて御礼を申し上げます。

最後になりましたが、修了生を代表して、寺嶋学長並びに諸先生方、お世話になった皆様のご健康と更なるご活躍、豊橋技術科学大学の益々のご発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

修了生代表　飯沼　辰也

※紙面の都合上、修了生答辞の一部を割愛しました。